2025 年度市の事務事業の状況

2025 年度の温室効果ガス排出量
エネルギー起源温室効果ガス排出量
203 千ﾄﾝ-CO2（基準年度 2013 年度比▲18.5%、前年度 2024 年度比▲5.2%）
非エネルギー起源温室効果ガス排出量
276 千ﾄﾝ-CO2（基準年度 2013 年度比▲9.8%、前年度 2024 年度比▲12.0%）
※基準年度の排出量に紙おむつ・紙くず由来含む

2025 年度のエネルギー起源（電力や施設燃料、自動車燃料等の利用による）温室効果ガス排出量は、基準年度の 2013 年度と比べて 18.5%の削減、前年度と比べると 5.2%の削減となり、非エネルギー起源（ごみ焼却・埋立や下水処理等による）温室効果ガス排出量は、基準年度の 2013 年度と比べて 9.8%の削減、前年度と比べると 12.0%の削減となりました。

エネルギー起源温室効果ガス排出量については、電力使用量が減少したこと、電力排出係数の低い電力への切り替え進んだことが主な減少要因となりました。非エネルギー起源温室効果ガス排出量については、廃棄物部門において廃プラスチック類の焼却量が減少したことが主な減少要因となりました。

表１　市の事務事業の温室効果ガス排出量（推計値[1]）　単位：千ﾄﾝ-CO2

区分	2013年度実績（基準年度）	2024年度実績 A（2013年度比）	2025年度実績 B（2013年度比）	B－A（前年度比）
エネルギー起源 温室効果ガス排出量	249	214（▲14.1%）	203（▲18.5%）	▲11（▲5.2%）
非エネルギー起源 温室効果ガス排出量	305	313（＋2.5%）	276（▲9.8%）	▲37（▲12.0%）

表２　市の事務事業の温室効果ガス排出量削減目標　単位：千ﾄﾝ-CO2

区分	2030年度	2035年度	2040年度
エネルギー起源	▲60%	▲70%	▲80%
非エネルギー起源	▲20%	▲44%	▲59%

[1] 四捨五入の関係で、合計値、増減比又は割合が合わない場合がある。